

令和5年度第3回（第12期第2回）さいたま市社会教育委員会議 会議録

開催日時：令和6年1月29日（月）15時00分～16時30分

開催場所：別館2階 第6委員会室

出席者名：【委員】若原 幸範議長、石川 敬史副議長、井上 久雄委員、
今川 夏如委員、加藤 美幸委員、小林 玲子委員、
佐野 操 委員、澁谷 知範委員、関根 広美委員、
鶴ヶ谷 柊子委員、永井 正委員、藤田 成司委員、
吉沢 浩之委員

【事務局】（生涯学習部） 辻 美由紀
（生涯学習振興課）辰市 健太朗、田原 佑介、石田 悦子、
伊藤 智美、清宮 雅貴
（生涯学習総合センター）野口 みずほ
（資料サービス課）中島 孝一

欠席者名：石崎 敬吾委員、林 弘樹委員

公開・非公開の別：公開

傍聴人の数：なし

1 開 会

2 挨拶

3 議 事

(1) 前回会議について

令和5年度第2回会議の概要について、会議録に基づき説明した。

(2) 第12期さいたま市社会教育委員会議の協議内容について

ア 協議テーマの設定

協議テーマについて、委員から寄せられた意見を基にした事務局案を提示し、併せて働く世代の生涯学習の現状について、資料3を基に説明した。

【意見・質疑応答】

<若原議長>

まず第12期の協議テーマについてです。委員の皆様からの事前意見と統計調査結果を基に、「働く世代の生涯学習と、地域活動への橋渡し」というテーマが提案されました。この場でテーマを確定し、以後の議論を進めたいと思います。

<加藤委員>

働く世代の生涯学習のあるべき姿を考えることに加え、やはり社会教育委員会議として期待するのは、個々人のキャリア向上だけではなく地域の中で学んだことを生かしてもらうことですので、今期の方向性をはっきり示す良いテーマだと思います。

<若原議長>

学習成果の地域社会への橋渡しは生涯学習ビジョンでも触れられており、第11期の提言でも強調したところですね。

<澁谷委員>

協議テーマの「橋渡し」という表現が印象的でした。

この言葉に生涯学習ビジョンの人づくり、つながりづくり、まちづくりという3つの方向性が示されているので、生涯学習を通じた地域活動への橋渡し実現にむけた協議が進められると良いと思います。

その上で申し上げますと、「内閣府の生涯学習の世論調査」によると働く世代の53.7%は「仕事に必要な知識・技能や資格に関すること」のために学習を行っており、一方で20.4%の方は学習を行っていないと回答しています。そこで、働く世代にとって、仕事に必要な知識や技能を学ぶことは生涯学習に含まれるのかという点に興味を持ちました。

協議を進める上で、生涯学習と地域活動が示す範囲はどういうものかを定めることができればと思います。

この会議の場で扱う生涯学習とは、一般に社会教育施設で取り組まれている生涯学習講座やシニアユニバーシティのような活動を中心とするのでしょうか。企業等での研修のように、仕事で直接使うための学習は議論に含まれるのかが気になりました。

また、地域活動は、チャレンジスクールや消防団活動等の有償無償のボランティアを中心とした活動のイメージでしょうか。欧米では政治活動、宗教活動、企業のビジネス活動等も地域活動に含まれるイメージを持ちます。この会議の場で扱う地域活動はどちらかというとならば奉仕活動に近いイメージを持ったのですが、そこが明らかになると話しやすいと思います。

<若原議長>

はじめに言葉の定義を明確にする必要があるというご意見でした。生涯学習を公民館等の行政的な事業に絞るのか。また、地域活動の範囲も共有しておきたいというご意見かと思います。事務局のイメージはいかがでしょうか。

<事務局>

本市では、家庭教育、学校教育、社会教育、そして自主的な学習をすべて生涯学習と捉えております。ただし、教育委員会として推進するものは生涯学習ビジョンにもありますように、個人学習にとどまらず、学習成果をつながりづくり、まちづくりに生かすことをターゲットとしています。

地域活動については、チャレンジスクールやボランティア、あるいは自治会の活動等、委員の皆様にもご参加の方は多いかと思いますが、事務局としては有償無償の区別なくつながりづくり、まちづくりに貢献する活動をイメージしています。

<若原議長>

生涯学習にしても地域活動にしても意味する範囲が広いので、議論が難しい部分もあります。生涯学習ビジョンを前提に今期は「橋渡し」をキーワードとして、地域のつながりや活動につながる生涯学習を考えたいと思います。一方で、人づくりの観点から個々の学習に即して考えることも必要です。全体としてはつながりづくりや地域への橋渡しの部分が焦点になるかと思います。

<佐野委員>

小学校で子ども達に読み聞かせするボランティア活動があるのですが、司書教諭の先生から様々なことを教えていただいても、子どもが卒業すると活動から抜けてしまうのが勿体ないという話があり、10年程前に公民館サークルとして地域の方に読み聞かせをする会をつくりました。

今でもチャレンジスクールや公民館での活動が続いているのですが、例としてはそのようなもので良いのでしょうか。個々人の担っていたものを、地域におろしていく橋渡しをして、サイクルをまわしていくという捉え方です。

<事務局>

今の事例も地域のつながりを作り、学習の成果を地域社会と共有して学びを進めていく生涯学習活動の一例だと認識しています。

<石川副議長>

個々人の様々な知識や技術、興味関心を持ち寄って集団となり、地域内で人と人とのつながりが形成されることが今回の協議テーマだと思います。

ただ、働く世代、生涯学習、地域活動の橋渡し等、言葉の定義になると一言で表すことはなかなか難しいです。この場ではまず個人の学習にとどめるのではなく、地域社会への参加や地域づくりにつながるものが合意を得られれば、協議テーマの方向性は良いと思います。

学びの循環やつながりの循環については資料2の今川委員のご意見が的確で、まちや社会全体の成長に資する生涯学習が、人の輪を広げて社会の発展につながっていくという思いがテーマに反映されれば良いのではないのでしょうか。

<若原議長>

協議テーマの意図するところが共有されたかと思います。意見用紙には「生涯学習」という用語を使わない方が良いというご意見もありましたが、細かい表現は最終的な成果物をまとめる際に改めて検討いたします。

<今川委員>

資料2のご意見を読むと、つながり、循環、きっかけ、寄り添うといった言葉が多く、橋渡しという言葉は見受けられなかったことが気になりました。届けるという言葉

葉は引っかかるというやり取りが前回あり、今回橋渡しとなりましたが、橋渡しはするけれど、その橋を渡ってきてくれるだろうかと思ってしまったので、「地域活動へのつながりづくり」のような直接的な表現はいかがかと思いました。

<若原議長>

つながりも大事なキーワードですね。提案の意図としては個人の学びの時点で止めず、次のつながりづくりや地域社会への参加に橋渡しすることを目指すということで、ここではあえて別の表現が使われたかと思います。地域活動への橋渡しにはつながりづくりが必要となるので、もちろんつながりづくりの重要性は言外に含まれるかと思います。

皆様のご意見を踏まえた上で今後議論していき、一旦ここでは「働く世代の生涯学習と、地域活動への橋渡し」と確定したいと思います。

イ 協議課題の設定

協議課題(1)「働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくり」と協議課題(2)「働く世代が地域活動につながる仕組みづくり」を提示し、次回以降のワークショップ・視察の進め方を説明した。

【意見・質疑応答】

<若原議長>

先ほどの協議テーマを踏まえ、協議課題の設定についてです。事前にいただいた意見をもとに2つの課題が設定されていまして、一つは「働く世代が生涯学習を身近に感じるきっかけづくり」と、もう一つは「働く世代が地域活動につながる仕組みづくり」です。特に後者は先程の「橋渡し」の議論に関連しますが、前者の協議課題もこれで良いのだろうかと考えているところです。委員の皆様からの率直なご意見をお聞かせください。

<澁谷委員>

どちらの協議課題もとても興味深いと思います。

その上で、まず「働く世代」という言葉に対するイメージを一度合わせた方が良いと思いました。Webで調べたところ、保健福祉行政では就労形態にはよらず20代～50代の世代を示す言葉として使われる印象を持ちました。一方、現役で働く70代、80代もいらっしゃいます。個人的には20代～60代、一定の年代を示す言葉とすると良いと思いました。

もう一つは、生涯学習と地域活動には領域として重複する部分があると思います。例えばチャレンジスクールは、子どもにとっては生涯学習としての活動となり、子どもを支援する大人にとっては地域活動になると思います。また、シニアユニバーシティや彩の国環境大学は、講座・講義等の受講は生涯学習であり、その先のつながりづくりという活動は、地域活動のようにも見えます。厳密にどちらに当てはまるのかは曖昧なところがあります。生涯学習と地域活動、各々の言葉が示す活動のイメージを合わせられると、より具体的な議論になると思います。

<若原議長>

生涯学習と具体的な地域活動は切り離せず、複雑に絡むものだと思います。例えば、講座等で学んだことを地域活動で生かすこともありますし、一方で地域活動を通して得る学びもあります。

そして働く世代の定義についてですが、事前に事務局とも打ち合わせたのですが、あまり絞りすぎると定義によって排除される人が出てしまうのではないかと考え、まずは厳密な定義をつけないという話になりました。とはいえ、基本的なイメージとしては先ほどおっしゃった20代から50代くらいの世代を念頭に置きながら議論していくことになるかと思います。

また、協議課題1の「きっかけづくり」という表現について、前回の「届ける」という表現に関わる議論が念頭にありまだ悩んでいるのですが、いかがでしょうか。

<今川委員>

私はきっかけづくりという表現は良いと思います。

<若原議長>

ご賛同ありがとうございます。最終的な成果物の作成の際に、議論を踏まえた上でまた検討しますので、協議課題はこちらの2本を柱にこれから深めていきたいと思えます。

つづいてワークショップや視察の進め方です。基本的に第11期の進め方を踏襲することとし、コロナ禍も落ち着いてきていますので、外部に出向くスタイルを含めて実施するほか、会議の回数外として自主参加の臨時会を設けるかも後程考えたいと思えます。

ウ ワークショップ・視察先案

ワークショップ・視察先案について委員から寄せられた意見を提示した。

【意見・質疑応答】

<若原議長>

行政関係と民間団体、企業等に分けて、事前にいただいた意見に基づき資料が作られています。多くの提案がありますが、詳細な調整は事務局にお任せします。今回はこれらの提案を共有し、優先順位をつけつつ、特に重要と思われる点について意見を伺いたいと思えます。

<石川副議長>

私は図書館学をやっているのですが、本を媒介としたつながりづくりとして、独立系書店を提案しました。最近20～30代ぐらいの方々が地域のコミュニティーを形成していく独立系書店が、地方を中心に展開しています。兵庫ではソーシャルワーカーや地域社会福祉との関わりで地域文庫を展開している事例もあるようです。市内の浦和ですと石井桃子さんの児童文学がありますし、杉並区にも子どもたちの居場所となる取

組があります。

大宮でも1棚3,000円ぐらいで貸し出しをして、働く世代の大人たちが自分の好きな本を展示して、読書会などのつながりづくりを展開しているところがあり、また南浦和にもそういった本屋があると聞いています。また最近、北与野のあたりに、本屋で子どもたちの学習をサポートする方もいらっしゃるのので、本を媒介としながらつながりづくりや学びを広く展開していく好事例があるかと思います。

また、文化芸術活動も挙げました。私自身は楽器も演劇もできないのですが、自己表現を通してつながり、さらに自己実現を果たしていくことも題材として魅力的ではないかと思います。

<若原議長>

生涯学習や社会教育の担い手としては、行政だけでなく民間企業も重要な役割を担っています。特に独立系書店は、民間の立場から本を媒介として居場所を作り、社会課題の解決や地域のつながりを作る活動を行っています。これらの活動は、働く方々によって実現されており、視察先として適しているというご意見でした。

<小林委員>

特定の団体は指定していませんが、私自身が仕事で関わる中で、様々なNPO団体があると感じ提案しました。

例として挙げられている中では、チャレンジスクールとシニアユニバーシティを請負っている団体が大宮にありまして、お話を伺えばターゲットや活動内容、結果などの分析に役立つのではないかと思います。

また、私が実際に関わっているさいたま市民大学は幅広い世代の方が参加されているので、その実情をお伺いできれば今後の目標が見えてくるのではないのでしょうか。シニアユニバーシティもそれぞれの分校がサークルを持っていて、地域活動には非常に活発に精力的に活動してらっしゃいますので、それぞれの事業や団体の背景や活動内容を踏まえて話し合いをできれば良いと思いました。

<若原議長>

NPOは先程のボランティア活動との関わりもあり、その活動自体が地域活動や地域貢献に寄与しています。チャレンジスクールなどを請負っている団体等は多世代の生涯学習を支援する役割を担っていて、そういった側面からの学びがありそうです。

シニアユニバーシティは第11期でワークショップを行いました。自分が学ぶだけでなく自主的な活動をしており、またそこで学んだ人が大学の運営に関わるという循環が行われているお話を伺い、非常に学ぶところが多い事業でした。

世代を超えた学びは重要な視点となりますので、意識して進めたいと思います。

<加藤委員>

限られた回数で「働く世代の生涯学習と、地域活動への橋渡し」というテーマに基づいて考えると、地域活動への橋渡しの事例を特に研究する必要があります。現役世

代が地域活動に参加するようになったきっかけを伺うには、生涯学習ビジョンでいうまちづくりに取り組んでいる事業や団体が良いのではないのでしょうか。石川委員ご提案の独立系書店などは、会合ができる場所があったり、マルシェが併設されていたりと様々な工夫をされているのでそういった話が聞けるとよいと思います。

<若原議長>

企業等の地域貢献意識もSDGsの社会的な広がりで盛んとなっていますが、そういうところに学ぶのは重要な視点となる気がします。国や県のアンケートでも仕事が忙しくて時間がないという回答がありましたが、企業活動の一環となるとまた別の活動があるかもしれません。その意義も研究課題になると思います。

<佐野委員>

公民館事業について、さいたま市は事業として親の学習のファシリテーターを養成しており、そこで養成された方が各公民館の親の学習事業で活動されています。地域の公民館事業で、お子さんに対しては科学の実験教室などを開催し、その間保護者の方には子育てについてグループワークを行うような仕組みがあり、そこに参加した保護者の方が自分も活動をやってみたいということで、次のファシリテーターの講習に参加していく循環があります。それがもう何年も続いていて、仕事を持っている働く世代の若い保護者もファシリテーターとして参加してくださっています。

チャレンジスクールも、地域のボランティアグループや個人の方が活動につながる橋渡しをしており、勉強だけではない学びの体験を受け継いでいる場として挙げました。

<若原議長>

チャレンジスクールは市としても力を入れているところかと思います。今回の皆さんのご意見でも良く出てきたものでもありますので、優先順位を高く検討したいと思います。

<今川委員>

NPOについて、私自身もNPOの代表をしているのですが、昨年12月にさいたま市で新たに認定NPOになられた「クッキープロジェクト」という団体に非常に興味を持っています。北浦和や小児医療センターにお店を出されているのですが、定款に記載された目的に「この法人は、ふだんの暮らしの中では知り合う機会が少ない人同士が、クッキーを通じて出会い、障がいがある人もない人も、会社員も学生もフリーターも、大人も子どもも、いろいろな人が『まぜこぜ』になって暮らす社会をめざし、障がい者の社会参加の推進などに係わる諸活動を行う」とあります。すごくつながるものを感じ、一度お話を聞いてみたいと思っていたので、情報提供としてお話ししました。

<若原議長>

働く世代というときに、実際に働いている人はもちろん想定されるのですが、一方で働く世代にありながらチャンスが得られない立場の方々もいますので、そういった方々をどう考えるかも大きなテーマになると思います。そういうときに今のご意見は参考になりますし、他にも職業能力開発促進センター等が案として上がっていますので、そういったところも重要かと思いました。

<関根委員>

議論に関連して、環境活動を行うNPOが盛んに活動されています。活動には親子で参加する方が多い一方で、団体の構成員は結構年齢が上の方なのですが、そういう様々な世代が関わるNPOはいかがでしょうか。私の勤めている桜環境センターではビオトープがあり、そこに数年前まで小学生の方が毎日のように来ていたらしいです。しばらくコロナ禍で来られなかったのですが、この間中学生になってその方がボランティアをできませんかと言ってこられたことがありました。これはすごい生涯学習だと実感しまして、自然はすごく身近でハードルも低いので、赤ちゃん連れでも来られるし、高齢の方も気軽に来られるので、そういう視点もあってよいと思いました。

<若原議長>

団体の構成員は高齢者層でありながら、そこに来て学ぶ活動をする方は子育て世代である働く世代という例が伺え、多世代のつながりが視点として提示されました。

<永井委員>

私が挙げたのは公民館事業なのですが、働く世代の生涯学習ということで、土日に開催される公民館事業がうってつけではないかと考えました。

行政ならではの視点からの働きかけもあるでしょうし、民間ならではの働きかけもあるでしょうから、この違いもお互いに説明を聞いて、比較しながら検討していったらよいのではないかと考えます。

<若原議長>

協議の回数も限られていますので、事業同士の比較という視点をもって対象事業を選定するのは良いと思います。

また、第11期は2回しか公式にワークショップの時間を取れなかったもので、自主会という形でワークショップを実施しました。今回も多く案が挙がっているので、事務局には少々負担をかけるかもしれませんが、手分けをして話を聞いてみるとか、議長が視察に行き都合が合う人が同行する等、幅を広げることも含めて取り組んでいくのはいかがでしょうか。

<今川委員>

議長が行くので行ける人は一緒に行きましょうみたいなのは、すごく個人的には好きです。そういう感じで色々なところに行く機会があるなら、私はどんどんついてい

きたいと思います。

<若原議長>

個人的に色々なところに話聞いてみたいと思いますので、ぜひやってみてほしいと思います。それで聞いたお話を、このワークショップで共有しながら全体で議論するやり方もあるかと思っています。全体で話す場はもちろん作りますが、もう少し柔軟な形で多くの声を聞きながら、議論を広げ深めていければと思います。

6 連 絡

現代短歌新人賞表彰式の開催通知と、第 65 回全国社会教育研究大会宮崎大会および第 54 回関東甲信越静社会教育研究大会栃木大会の参加結果を報告した。

7 閉 会

以上

さいたま市社会教育委員会議（令和5年度）

[このページを印刷する](#)

会議結果

令和5年度

第1回さいたま市社会教育委員会議

日時 令和5年7月4日（火曜日） 13時00分から14時30分

場所 別館2階 第4委員会室

1. 会議の開催結果

 [令和5年度第1回会議の開催結果\(令和5年7月4日\) \(PDF形式 67キロバイト\)](#)

2. 資料

 [令和5年度第1回会議資料一式\(令和5年7月4日\) \(PDF形式 2,367キロバイト\)](#)

3. 会議録

 [令和5年度第1回会議録\(令和5年7月4日\) \(PDF形式 170キロバイト\)](#)

第2回さいたま市社会教育委員会議

日時 令和5年11月20日（月曜日） 10時00分から11時30分

場所 別館2階 第4委員会室

1. 会議の開催結果

 [令和5年度第2回会議の開催結果\(令和5年11月20日\) \(PDF形式 66キロバイト\)](#)

2. 資料

 [令和5年度第2回会議資料一式\(令和5年11月20日\) \(PDF形式 1,465キロバイト\)](#)

3. 会議録

 [令和5年度第2回会議録\(令和5年11月20日\) \(PDF形式 188キロバイト\)](#)

第3回さいたま市社会教育委員会議

日時 令和6年1月29日（月曜日） 15時00分から16時30分

場所 別館2階 第6委員会室

1. 会議の開催結果

 [令和5年度第3回会議の開催結果\(令和6年1月29日\) \(PDF形式 65キロバイト\)](#)

2. 資料









 [令和5年度第3回会議資料一式\(令和6年1月29日\) \(PDF形式 913キロバイト\)](#)

3. 会議録

 [令和5年度第3回会議録\(令和6年1月29日\) \(PDF形式 216キロバイト\)](#)

関連ダウンロードファイル

 [令和5年度第1回会議の開催結果\(令和5年7月4日\) \(PDF形式 67キロバイト\)](#)

-  令和5年度第1回会議資料一式(令和5年7月4日) (PDF形式 2,367キロバイト)
-  令和5年度第1回会議録(令和5年7月4日) (PDF形式 170キロバイト)
-  令和5年度第2回会議の開催結果(令和5年11月20日) (PDF形式 66キロバイト)
-  令和5年度第2回会議資料一式(令和5年11月20日) (PDF形式 1,465キロバイト)
-  令和5年度第2回会議録(令和5年11月20日) (PDF形式 188キロバイト)
-  令和5年度第3回会議の開催結果(令和6年1月29日) (PDF形式 65キロバイト)
-  令和5年度第3回会議資料一式(令和6年1月29日) (PDF形式 913キロバイト)
-  令和5年度第3回会議録(令和6年1月29日) (PDF形式 216キロバイト)



PDFファイルの閲覧にはAdobe Reader（無償）が必要です。同ソフトがインストールされていない場合には、[Adobe社のサイトからAdobe Readerをダウンロードしてください。](#)

関連リンク

> [さいたま市社会教育委員会議](#)

この記事についてのお問い合わせ

教育委員会事務局/生涯学習部/生涯学習振興課 企画振興係
電話番号：048-829-1704 ファックス：048-829-1989

> [お問い合わせフォーム](#)

[サイトマップ](#) [当サイトについて](#) [ご利用ガイド](#) [アクセシビリティポリシー](#)

さいたま市役所

住所：〒330-9588 さいたま市浦和区常盤六丁目4番4号 開庁時間：8時30分から17時15分（土曜日、日曜日、祝日、休日、年末年始を除く）
電話：048-829-1111（代表） ※一部、開庁時間が異なる組織、施設があります。
※さいたまコールセンターにつながります。 法人番号 2000020111007